BE KOBE

教育長会見

2022年12月16日

学年（チーム）担任制について

1. 学年（チーム）担任制とは

BE KOBE

学級担任を固定せず

学級における児童生徒の指導等の業務を

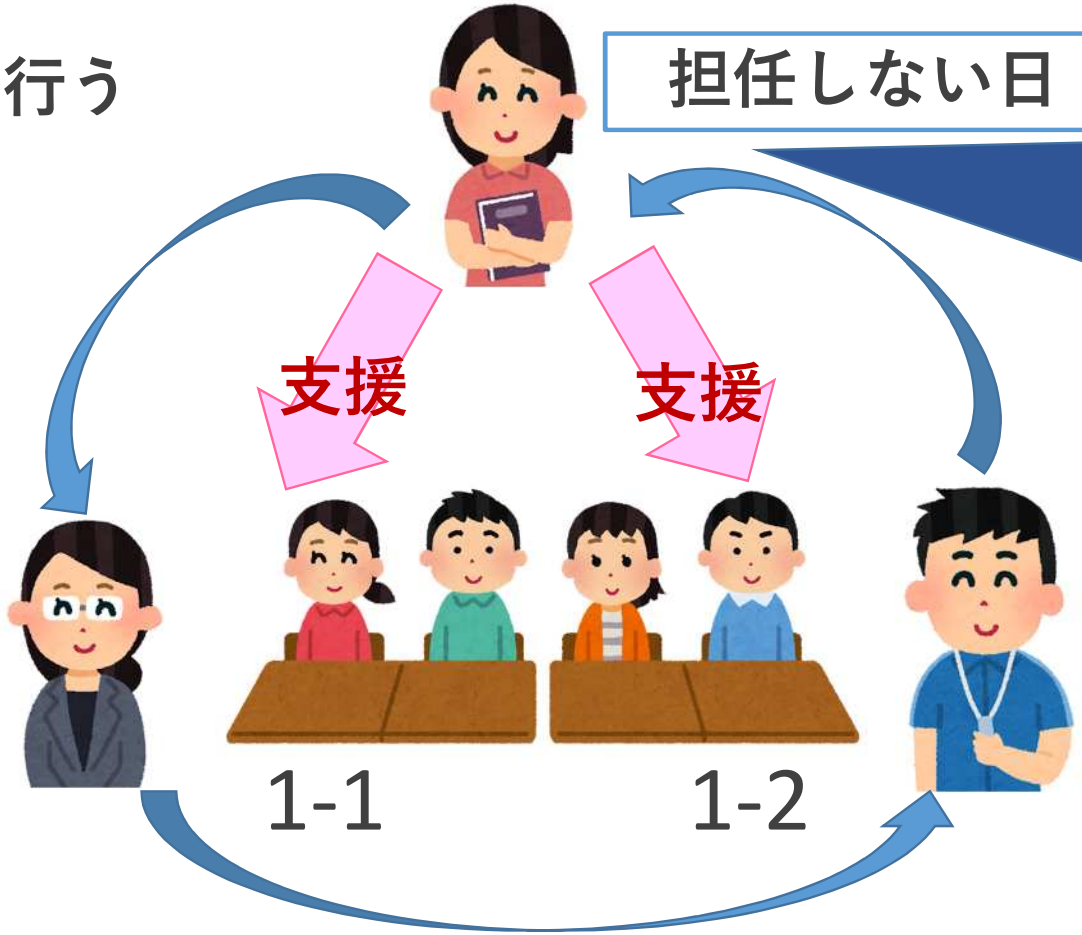
複数の教員がローテーション等で担当する

などして行う学級運営の方法

1. 学年（チーム）担任制とは（例１）

BE KOBE

（例１）中学校１年生２学級に３人の教員が週ごとに入れ替わりながら学級業務を行う

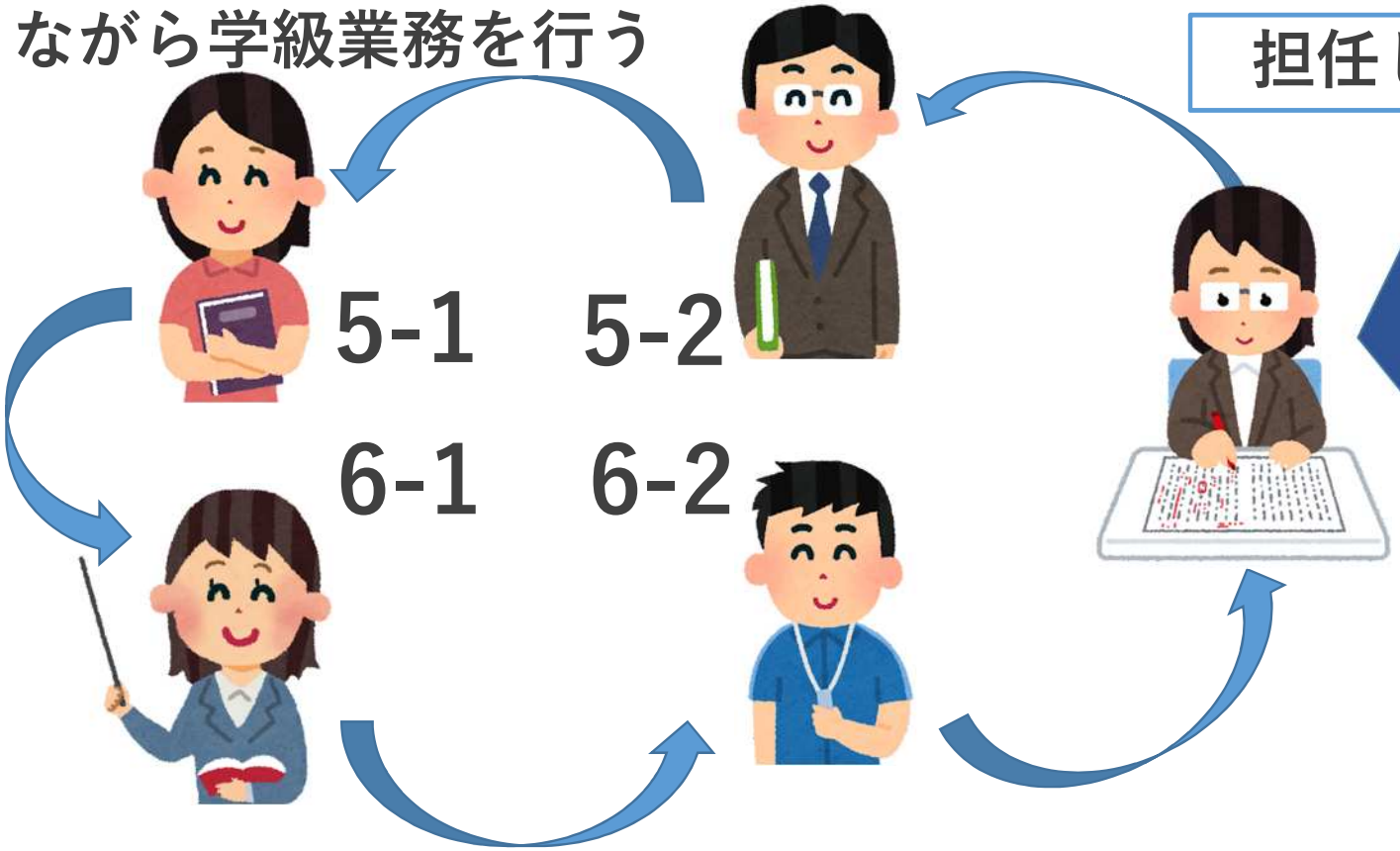


学級を担任しない日や学年全体を見通す日・週を作り、より柔軟に児童生徒・保護者への支援を行えるようにする。

1. 学年（チーム）担任制とは

BE KOBE

（例２）小学校５、６年生４学級に５人の教員が週ごとや月ごとに入れ替わりながら学級業務を行う



担任しない日

学級を担任しない日は、学年の事務処理等や他の教員のサポートを行うなどの業務に携わることも可能。

2. 導入の目的

BE KOBE

（１）教職員が多面的な視点で児童生徒と関わり
児童生徒の変化に気づく機会を増やす

（２）多くの教職員との活動や対話を通じて
児童生徒の多様な能力の伸長を図り
健やかな成長につなげる

（３）教職員が連携・補完することによって
指導力の向上および組織力の強化を図る

3. 想定される利点・課題

BE KOBE

＜利点＞

① 児童生徒の変化に気づく機会が増え

早期かつ丁寧な対応が期待できる

② 児童生徒・保護者にとって

相談できる教職員が増え、安心感が高まる

3. 想定される利点・課題

BE KOBE

＜利点＞

③教育活動や指導の透明性を高め

開かれた学校づくりにつながる

④指導技術の継承と、業務の平準化・標準化

が図られることにより、働き方改革につながる

3. 想定される利点・課題

BE KOBE

＜課題＞

① 児童生徒・保護者が

どの教職員に相談したらよいか分かりづらい

②児童生徒・保護者からの

依頼や相談が特定の教員に偏ることがある

③教員間での児童生徒の状況の共有や

事務引き継ぎ等をこまめに行う必要がある

令和５年４月より

小学校２校、中学校２校でモデル実施

↓

検証・評価

↓

全市への展開を検討

BE KOBE

小学校における

登下校時の持ち物の負担軽減について

現状・課題

BE KOBE

小学校の登下校時における持ち物

教科書・その他教材・学用品等

＋

学習用パソコン

↓

児童にとって負担

これまでの取組状況

BE KOBE

基本

持 ち 帰 る

↓

平成30年度より

児童の負担を考慮した対応

（具体例）

教科書や副読本、資料集、辞書、絵具セット、書道セット等、

学校に置いて帰るものと持ち帰るものの区別を明確にする

重さの現状

BE KOBE

登下校時における持ち物の重量

学用品	重さ(g)
ランドセル	1,200
学習用パソコン	1,100
教科書（国語・算数）	500
ノート（国語・算数・百字練習帳）	600
ドリル（漢字・計算）	400
連絡帳・筆箱・給食袋など	700
合計	4,500

国語や算数を除き、基本的に置いて帰る児童のイメージ

※小学校1年生
体重平均
（R3年度：神戸市）
男：21.4kg
女：20.9kg

見直しの状況（令和４年８月時点）

BE KOBE

（１）置いて帰る教科書や教材

教科	置いて帰る割合
国語	4.0%
算数	9.1%
社会	87.0%
理科	86.8%
生活	74.2%
道徳	97.2%

教科	置いて帰る割合
音楽	95.8%
図工	93.5%
外国語	97.6%
家庭	97.5%
書写	96.9%
保健	95.7%

見直しの状況（令和４年８月時点）

BE KOBE

（２）置いて帰る学用品

教具	置いて帰る割合
習字セット	32.0%
絵の具セット	43.9%
裁縫セット	60.0%

教具	置いて帰る割合
算数セット	100.0%
鍵盤ハーモニカ	100.0%
リコーダー	96.6%

見直しの状況（令和４年８月時点）

BE KOBE

（３）学習用パソコンの持ち帰り状況（学年別）

学年	週1回以上 持ち帰る
低学年	47.9%
中学年	76.0%
高学年	85.3%

BE KOBE

基本的な考え方の転換

「学校に置いて帰ることができる学用品」

↓

「家庭学習のために持って帰る学用品」

へ発想を転換する

今後の対応

BE KOBE

学校に置いて帰ることができる

「置き勉」

家庭学習に必要なものを持って帰る

「　　」

児童からキャッチフレーズを募集